

## 第9回災害軽減国際ワークショップを長岡市で開催

2018年6月18～20日の3日間、災害軽減に関する国際ワークショップを新潟県長岡市で開催しました。韓国の国家防災研究院(National Disaster Management Research Institute, NDMI)、台湾の国家災害防救科技センター(National Science and Technology Center for Disaster Reduction, NCDR)と防災科研(NIED)は2007年11月末に台北市内で開催された「第2回国際都市防災会議」の際にMOUを締結しました。これに基づき、それぞれの国・地域における最新の防災科学技術を発表し合う場として3機関が持ち回りで毎年1回ワークショップを行っています。日本での開催は2010年、2014年に続き3回目で、長岡市での開催は初めてになります。

19日(火)には、長岡市が運営するシティホールプラザ アオーレ長岡にて、3機関が経験した近年の災害からの教訓や、研究成果等についてプレゼンテーションを行うセッションを開催しました。開会のあいさつでは、林春男防災科研理事長からの歓迎の言葉に続き、Jaehyun Shim NDMI院長、Hongey Chen NCDR院長から開会の言葉があり、3機関の良好な関係を表していました。防災科研からは6名の研究員が登壇し、雪氷防災研究部門の上石勲部門長と中井専人副部門長からの豪雪地帯長岡での研究紹介をはじめ、2017年7月九州北部豪雨の研究について、日本の研究と人材の統合を目指す災害対策イニシアティブについて、首都圏を中心とした総合レジリエンス力の強化について、SIP4Dにおける災害対応情報の共有と活用について、それぞれの研究員が発表しました。また、韓国NDMIからは浦項地震(2017年11月15日発生)の対応や液状化のリスク評価、SNSの分析などのケーススタディを、台湾NCDRからは花蓮地震(2018年2月6

日発生)での地形変化と土壌の液状化、台湾北部夏期雷雨監視システムの導入、地すべり防災のための災害ポテンシャルマップと記録システムの応用について発表があり、会場では活発な意見交換が行われました。さらに今回はゲストレクチャーとして3名の方々にご登壇いただきました。新潟県防災局の防災企画課長浦井正之様より、中越地震をきっかけとして防災のノウハウを拓くとともに日本全国の自治体との連携を進められている新潟県防災局の災害対応の事例を踏まえその機動的な取り組みをお話いただき、筑波大学システム情報系の遠藤靖典教授と梅本通孝准教授より、産学官連携によるレジリエンス研究教育推進の取り組み等をご紹介いただきました。

セッションの前後にはサイトビジットを行いました。初日の18日(月)に研究施設視察として防災科研の雪氷防災研究センターの実験設備をご覧いただき、最終日である20日(水)には、2004年中越地震によって甚大な被害を受けた山古志村を訪れ、郷見庵、木籠メモリアルパーク、やまこし復興館 おらたる、山古志アルパカ牧場、丸重養鯉場等を視察し、地震の被害やその後の復興の様子を紹介しました。

次回の国際ワークショップは韓国側主催で開催される予定です。



韓国、台湾から招いた専門家を含む約50名が参加



Shim NDMI院長、林理事長、Chen NCDR院長



報告セッションの様子



木籠メモリアルパークを視察

## 一般公開（雪氷防災研究センター）

雪氷防災研究センター（長岡市）の一般公開を6月8～9日に開催し、300名以上の方々にご来場されました。展示したパネルで雪による災害の軽減・防止のための研究の最前線を学んでいただいたほか、氷点下の低温室の中でシャボン玉をふくらますとそのまま凍る様子を目の前で観察したり、ペットボトルを用いて雪の結晶を作成したりして様々な雪と氷の実験を楽しん

でいただきました。

7月27日には同新庄雪氷環境実験所（新庄市）の一般公開を開催し、200名以上の方々にご参加いただきました。真夏の雪氷防災実験棟に降る、自然のものにそっくりな人工雪を多くの方が興味深く観察していました。



シャボン玉も凍ります



ナダレンジャーのサイエンスショーも人気を集めました



防寒服を着て人工雪をじっくり観察しました

## 朝日小学生新聞「集まれ!こども編集部」取材会

8月21日(火)に朝日学生新聞社と防災科研は、9月1日の「防災の日」を前に、台風や地震、豪雨などの自然災害を理解し、日ごろから防災について意識したり備えたりすることを目的に、子どもたちが記者として参加する「集まれ!こども編集部」を開きました。

当日は、親子12組30名が参加し、7月に西日本を中心とした豪雨が大きな被害をもたらしたこともあり、特に雨について学びました。

はじめに、雨に関するクイズをした後、雨の怖さを

実感し、防災に役立ててもらうことを目的に、大型降雨実験施設で1時間あたり300mmの雨を体験しました。子どもたちは、楽しみながらも「雨が当たると痛いくらい」と、豪雨の怖さを体感していました。

体験後は、Dr.ナダレンジャーがペットボトルや発泡スチロールブロックを使って自然災害をミニチュアで再現する実験教室を開き、子どもたちに解説を行いました。



親子で雨についてのクイズに参加



豪雨体験前、その恐ろしさを勉強します・・・

## つくばちびっ子博士2018

防災科研（つくば本所）では、つくば市・つくば市教育委員会が主催する「つくばちびっ子博士2018」にあわせ、防災教育活動の一環として3企画を開催しました。

■ 「Dr.ナダレンジャーの自然災害科学実験教室」  
7月25日(水)、8月7日(火)、22日(水)、28日(火)  
各日2回各60分

■ 「Dr.ナダレンジャーのMEGA ゆらゆら×巨大発泡スチロール@大型耐震実験施設」  
7月31日(火) 2回各60分

防災教育の普及を目的に、Dr.ナダレンジャーがペットボトルや発泡スチロールブロックなどを使って、自然災害を再現する実験教室を実施、7月31日は大型耐震実験施設で振動台にのせた巨大発泡スチロールを倒す実験を行ないました。

毎回親子連れで賑わい、全10回で約2,200名の方にご来場いただきました。



自然災害科学実験教室でペットボトルを使って液化化の実験



大型耐震実験施設で巨大発泡スチロール倒し

■ 「豪雨体験」(大型降雨実験施設)  
8月7日(火) 3回各15分

豪雨の怖さを実感し、防災に役立ててもらうことを目的に、1時間あたり300mmの雨を降らせる豪雨体験を開催しました。

長靴を履き、傘をさしていてもずぶ濡れになってしまうほどの雨や、短時間で足首以上に水がたまってしまう豪雨の怖さを体験しました。

当日は約1,100名の方にご来場いただきました。



傘とカッパで準備OK!



1時間あたり300mmの雨ってどれくらいの強さかな?

### 防災科研ニュース 2018 No.202

2018年9月28日発行

●防災科研ニュースはWebでもご覧いただけます

■発行  国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 企画部広報課  
TEL.029-863-7768 FAX.029-863-7699

URL : <http://www.bosai.go.jp/> e-mail : [k-news@bosai.go.jp](mailto:k-news@bosai.go.jp)